



勢を示しました。

# ありのままの市民のこえにこたえよ

## 9月市議会一般質問 松尾議員が指摘

九月市議会一般質問で松尾議員は、党議員団がとりくんだ市民アンケートの結果を紹介。

その最大の特徴は①いまの寝屋川市政にたいし、多くの市民が不満を感じていること②市長がすすめている主要な施策について、市民の賛成が非常に少ないこと③市民は医療・介護・福祉・子育て支援の充実を強くもめていることなどを明らかにし、馬場市長の見解をもとめました。

しかし、市長は「アンケートがどのような形でとられたか不詳で、個別の答弁をさしひかえた」と、具体的な答弁を拒否する姿勢を示しました。

### 都合の悪い市民の意見 無視する姿勢は許されない

松尾議員はアンケートには無差別に配布し、郵送で回答があったもので、ありのままの市民からの声であり、正しく批判しました。

### 市民が望んでいない 大型開発優先やめよ

その上で松尾議員は、市政への満足度が低いことが、人口減少がもたせていること。保育所・学童保育・障害児の療育などの施策の後退や、全国最低クラスの乳幼児医療費助成制度などのもと、子育て世代の転出がふえ、少

子化が進んでいる点を指摘。駅前再開発など、市民が賛成していない施策優先をやめ、子育て支援、介護・医療の充実など、市民が望んでいる施策の拡充を市政の基本にすることを強くもめました。

### 9月市議会 国に乳幼児医療費助成制度 創設もとめる意見書採択

二十六日、九月市議会定例会が閉会しました。党議員団は高齢者の負担増となる、国民健康保険条例改正及び、国民健康保険制度の都道府県単位への再編成につながる、特別会計

寝屋川民報  
議会版

発行  
日本共産党  
寝屋川市会議員団  
824-1181  
(内線2399)  
FAX No. 824-7760  
Email: jpcncc@ccnet.or.jp  
No. 1963

田中 ひさ子  
国松町 10-36  
☎ 823-1714

寺本 とも子  
豊田町 38-1-105  
☎ 829-9424

中林 かず子  
宝町 4-33  
☎ 839-2289

中谷 光夫  
高宮 155-8  
☎ 823-5947

松尾 信次  
下木田町 12-6  
☎ 821-7427

### 視界

九月三日は孫の運動会で京都・伏見まで出掛けました。とてもよい天気でしたが、二人の孫が競技や団体演技に元気な姿で振る舞っているのを見て、とてもうれしい限りです。二人は各々めざと私を見つけてVサインをしてよかったです▼その日の気分よしのには下地がありました。東京委員会の出した「日の丸・君が代」への起立・斉唱を強制する通達にたいする教職員四〇一名による訴えを全面的に認めて、強制的は違憲の違法であるとの判決を下した報道を、判決に聞いていたからで自由に基づいて、一日の丸・君が代」への起立・斉唱を拒否する自由がある▼おすまじに、二〇日の自民党総選挙で安倍晋三官房長官が新総裁に選出され、総理大臣就任の第一の仕事で教育基本法を定めることだと言っていた出鼻をくじかれた格好になったからです▼運動会が終わる孫たちと握手で別れたの帰路、国旗掲揚、宮城遥拝、天皇陛下、御真影、奉安殿、二宮尊徳、君が代「海ゆかば」などのキーワードがらばめられた少年時代を振り返っていました。安倍首相誕生が再び戦争前後ということになる基本法の改悪を許さない運動を強めなければと、雲一つない夜のような夜空を眺め強く思いました(〇)

社会保障推進協議会が提出した請願は、日本共産党以外の反対で不採択となりました。日本共産党が提案した「国に乳幼児医療費助成制度の創設をもとめる意見書」が採択されました。

# 介護保険料の減免策を

## 田中ひさ子議員が一般質問

介護ベッド・電動車イス  
軽度者からとりはがしやめよ

田中議員は、介護保険について質問を行いました。

厚生労働省は、「介護ベッド・電動車イスを一律回収しないように」と事務連絡を都道府県の担当者に送られている。現場の意見をとり、介護ベッド、電動車イスを取りあげないこと」を求めまし



た。  
市は「介護ベッドは国の基準があり、要介護一・要支援一・二の利用は困難」と答弁しました。

一八〇五件の苦情などに応えよ

田中議員は、「八月中心介護保険料についての苦情や問い合わせ高齢介護室の窓口対応には合計一八〇五件あり、年金は、毎年減っているのに、これでは生活できない」など高すぎる

都港区では、対象者に對し、区が指定した自立支援型ベッド(立ち上がり欄・高さ調整付き)、月五〇〇円で利用できる助成を行って、せめて港区のよ

うに市独自の施策」をもとめました。  
市は「電動車イスは、医師の意見書があれば、必要性を審査して対応する」と答弁しました。

田中議員は、「八月中心介護保険料に怒りと抗議の声が寄せられている。現在の二五％を当面、三〇％に国庫負担を増やすよう。国に対し、市は強くもめること」と、さらに「府内でも三二自治体で保険料独自の減免を行って、市保険料独自減免を実施すること、隣の大東市でも第三段階

を第一段階に減免。市も世帯全員が市民税非課税の第三段階の保険料を第一段階の保険料に減免すべき」と求めました。  
市は国に対しては要望するが、市独自の保険料減免は考えていない」という答弁でした。

## 「すべての子ども対象」と「学童保育」 双方の拡充が大事

田中議員は、学童保育について質問を行いました。  
厚生労働省と文部科学省は、小学生の放課後対策事業「放課後子どもプラン」とし、二万ヶ所の小学校区で実施する方向を示しています。

実施するもの。一方、学童保育は共働き親等が就労のため、子ども達の安全と発達を保障する「遊びと生活の場」である」と指摘しました。

その上で、「一体化でなく『すべての子ども対象の施策』と『学童保育』の双方の拡充が大事だ」とし、「①土曜日開所、②障害児は特に六年生まで入所を希望する全員入所を④指導員が働き続

**議員日誌**

6月議会に引き続き、今回も介護保険について質問を行いました。

市の答弁は、相変わらず冷たいもので、傍聴に見えていた方が、「九一歳の母親がいる。介護保険で大変な思いをしてきたところ、よく言

**田中ひさ子**

つてくれた、聞きながら涙が出そうになった」と握手を求められました。

この言葉を開き、質問の準備の疲れが一変に吹っ飛びました。

「層みなさんの声を市政に反映するため頑張らなければ」と思いました。

